

喫煙行動と労働生産性の関係～パネルデータによる分析～

一橋大学大学院経済学研究科修士課程 孫亜文¹

近年、喫煙が健康状態へ悪影響を与えることが広く知られるようになり、喫煙者を減らす禁煙政策や受動喫煙を防ぐ喫煙場所の制限などが全国で行われている。これらの政策の費用・便益分析を行うためには、喫煙行動の経済的費用を推定し、喫煙者を減らすことによる経済的便益を知ることが必要である。喫煙行動の経済的費用として、医療費の増加と並んで指摘されるのが、労働者の健康状態の悪化とそれに伴う労働生産性の低下である。

本稿では、2004年から2010年までの『慶應義塾家計パネル調査』の個票パネルデータを用いて、喫煙行動が労働生産性を低くするという仮説の再検討を行った。喫煙行動の習慣化や意思決定は、家族・友人関係などの環境要因や、能力・嗜好などの先天的要因、社会的経済要因によって変化するものである。分析では、これら観測しづらいデータによる潜在的バイアスを、パネルデータを用いた固定効果推定と変量効果推定でコントロールし、喫煙行動が労働生産性へ及ぼす影響をより正確に検証した。

その結果、男性では、喫煙行動が労働生産性を約8%引き下げることがわかったが、観測されない個人間の異質性をコントロールした場合、喫煙行動と労働生産性には因果関係がないことがわかった。女性では、異質性をコントロールしてもしなくても喫煙行動による労働生産性の差はないことがわかった。

また、本稿ではパネルデータを用いることで、喫煙行動と労働生産性との間に直接的な因果関係がないことを示したが、依然として間接的な因果関係があると考えられる。今後の課題として、労働生産性への長期的な影響の検証と、時間を通じて変化する観測しづらい要因のコントロールがあげられる。

	プーリング推定	変量効果推定	固定効果推定
喫煙ダミー(男性)	-0.075 (0.026)***	-0.055 (0.023)**	-0.029 (0.037)
<i>N</i>	5,644	5,644	5,644
Hausman検定		Chi2(14) = 55.32	Prob > chi2 = 0.0000
喫煙ダミー(女性)	0.048 (0.033)	0.010 (0.031)	-0.043 (0.051)
<i>N</i>	4,498	4,498	4,498
Hausman検定		chi2(14) = 30.76	Prob > chi2 = 0.0060

* $p < 0.1$; ** $p < 0.05$; *** $p < 0.01$

プーリング推定はクラスター標準誤差による推定。被説明変数は時間当たり賃金(円)

日本経済学会2012年春季大会：<http://www.jeameetings.org/2012s/submission.html>

¹ Email : em102018@g.hit-u.ac.jp